

# リは、てい 老上

編集発行：老上同和教育推進協議会

老上学区まちづくり協議会  
老上西学区まちづくり協議会

草津市野路町 520 TEL. 564-1430  
草津市矢橋町 526-1 TEL. 565-1995

## 『自分らしく』生きたい♡



2025年は巳年。

60年に一度の『乙巳(きのとみ)』年は、どんな年？

大きな転機となる可能性が高い年。

計画に固執せず、柔軟に対応。

また、自分を磨くための学びや挑戦を積極的に取り入れると将来につながる成果が得られる。

誰もが、『自分らしく』生きたい。

なぜそんなに『人目』を気にするのか?!

人とのつながりの中で、自分の中にある「決めつけ」や「偏見」に気づき、自身の生き方を確かめたいものです。

今年度も研修会や町内学習懇談会にご参加いただき、ありがとうございました。

毎年続けることで、人権感覚を磨いていきましょう。

老上同和教育推進協議会 会長 久米田 豊子

## 老上同和教育推進協議会初☆の人権標語公募

59作品の中から優秀作品が決定!!

### 《最優秀作品》

「できること ひとつずつ集めて 大きな力」

磯嶋 玲子さん

### 《優秀作品》

「思いやり 声かけ 気づかい みんなができる たすけ愛」

竹之内 晃さん

「ありがとう 感謝の心で つながる輪」 匿名希望



## 令和6年度 草津市人権作品

市人権センターが市内の園児・児童・生徒・一般に募集し、総数7,493点の応募の中から選ばれた当学区の作品を紹介します。

### 詩の部

### 優秀作品

なかよくしよう  
 老上小学校 三年  
 はなもと はるか  
 華本 遥さん

なかよくしよう  
 その方が楽しいよ  
 なかよくしよう  
 その方がすてきだよ  
 なかよくしよう  
 ケンカするよりいいよ  
 なかよくしよう  
 親友になれるかもしれないよ  
 なかよくしよう  
 友だちがいる方がさびしくないよ  
 なかよくしよう  
 なかよくできたらうれしいよ  
 なかよくしよう  
 なかよくしてくれて  
 ありがとう

### 標語の部

#### 最優秀作品

やめようが 言える学校 いじめゼロ

老上小学校 6年 前川 葉月さん

#### 優秀作品

うれしいな いつもとなりにもががいる

老上小学校 2年 奥村 暖生さん

協力し 未来の町は 差別なし

老上西小学校 6年 西山 史桜さん

### ポスターの部

### 最優秀作品



老上小学校 1年 谷口 蒼真さん



老上こども園 5歳児 田中 涼雅さん

# 『全ての人々に平等を』

さわもと りょうたろう  
老上中学校 2年 澤本 遼太郎

老上同和教育推進協議会では、毎年、学区内の小・中学校の児童・生徒に人権をテーマに作文を募集してきました。今回は、老上中学校代表として選ばれた作文を紹介します。

人種差別は、個人の尊厳と人権を著しく侵害する深刻な問題であり、どの社会においても解決が求められる重要な課題です。差別は、肌の色、民族、出身国などに基づいて人々を不公平に扱う行為であり、これは歴史的に長い間続いてきた問題です。現代社会においても、差別の影響は依然として根深く、私たちが平等と尊重の価値を実現するためには、継続的な努力と意識改革が不可欠です。

人種差別の影響は、多岐にわたります。教育、雇用、医療、法的権利など、生活のあらゆる面で差別が存在し、これが個々の生活にどれほど深刻な影響を与えているかを理解することが重要です。例えば教育の機会が制限されることにより、将来のキャリアや人生の選択肢が狭められることがあります。雇用においても、人権による偏見が昇進の機会や職場での平等な待遇に影響を及ぼし、結果的に経済的な不平等を生む原因となります。医療の分野では、差別的な扱いが健康格差を生み出し、適切な医療を受ける機会を奪われることがあります。法の下での平等な扱いが保証されないことには、社会的な信頼や公正感を損なうことになります。

人権差別に対抗するためには、まず、その存在を認識し、その影響を深く理解することが必要です。差別の根源を探り、その構造的な原因を解明することが、問題解決の第一歩となります。教育は、こうした理解を深めるための基本的な手段です。学校や地域社会での教育プログラムを通じて、人種差別の問題について学び、異なる背景を持つ人々への理解を深めることが大切です。教育は、偏見を減らし、相互理解を促進するための重要なツールであり、長期的な変化をもたらす可能性があります。

法的措置や政治改革も、差別に対抗するために不可欠です。政府や国際機関は、差別を防ぐための法律や規制を整備し、それを厳格に実施する責任があります。たとえば、雇用機会・教育機会を平等にする法律などの枠組みを整備し、差別的な行為に対して厳しい対応を取ることが求められます。これにより制度的な差別を排除し、社会全体の意識を変えることができます。また、個人レベルでの行動も重要です。私たち一人ひとりが日常生活の中で差別的な言動や態度を見逃さず、それに対して適切に対処することが必要です。たとえば、職場や学校での差別に対して声を上げ友人や同僚に対しても偏見を持たせないようにすることが大切です。個人の行動が集まることで、社会全体の意識が変わり、より公正な社会を築くための土台が築かれるのです。さらに、コミュニティや社会全体での取り組みも欠かせません。多様性を尊重し包摂的な社会を目指すためには地域社会での協力が必要です。たとえば、多文化共生のイベントや交流の機会を設けることで、異なる背景を持つ人々との理解を深めることができます。こうした取り組みが差別に対する意識を高め社会全体の団結を促進するのです。

最終的に、私たちの社会は多様性を受け入れ尊重することで成り立っています。人種差別に対する意識を高め、全ての人々が平等に扱われる社会を実現することは私たち全員の責任です。共に手を取り合い、多様性を尊重し差別のない社会を築くための努力を続けることがより公正で平和な未来を実現するための道です。人種差別に対する取り組みを進めることで私たちは全ての人々が尊厳を持って生きることができる社会を作り上げることができるのです。



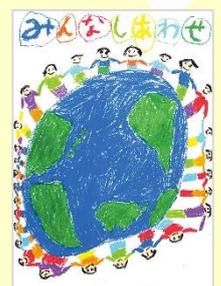
(グループ作品)  
老上小学校 2年5組



老上小学校 1年  
つじ あつき  
辻 篤樹 さん



老上小学校 1年  
きくおか さつき  
菊岡 咲月 さん



老上小学校 1年  
きぬがわ りんせい  
衣川 凜政 さん

中林自治会

町内学習懇談会

南草津団地自治会

『ネット差別を許すな! ~川口泰司さん~』

12月14日(土) 18:00~

自治会長を拝命してまず取り組んだのは、自治会の推進委員と共に「町内学習懇談会推進者研修」への全参加をすることでした。

そこでいろいろなことを勉強させてもらい、自治会館において、参加者25名で、DVD「ネット差別を許すな!~川口泰司さん~」を視聴しました。

その後班に分かれて、ディスカッションを行い、班の代表者がそれぞれの意見をまとめて発表しました。

参加者全員が「差別はダメ」という共通の思いを強くすることができました。



『まず 関心を持とう』

12月7日(土) 19:00~

DVD「その人権問題わたしならどうする」を視聴して、差別はみんなの努力でなくせると確信、差別はなくさなければならぬと決意を新たにしました。

自分に何が出来るかとの認識を深め、差別の現状に関心を持ち、自分がどのように関わられるかと問う反面、周りには無関心な人がほとんどではないか?

親から子、孫へとつながる誕生の喜びも、差別を感じている人にとっては、将来に不安を感じ、悩みへとつながっているのではないか。

まず、誰もが差別の現状に関心を持とう。



町内学習懇談会推進者研修講座(第3講座)

『こどもの人権』

~今を生きるこどもの理解と手立て~

《講師》滋賀県スクールソーシャルワーカースーパーバイザー

上村 文子(かみむら あやこ)さん

8月7日(水) 19:30~

【草津市立橋岡会館】

社会福祉士でもある講師に「こどもの人権」について講和いただきました。



「こどものしあわせとは、身体的・精神的・社会的に満たされ、差別や偏見にさらされないこと。すなわち、こどもたちが個人の持つ特徴によって、周囲から否定的な意味付けをされ、不当な扱いを受けることがないようにすることです。

こどもたちが生まれながらに持っている、生きる権利・育つ権利・守られる権利・参加する権利を保護し、こどもを取り巻く環境を安全・安心なものにしていかなければなりません。そのためには家庭・学校・地域が連携して、支援していくことが大切になります。ただし周りの支援だけではなく、こども自身がストレス耐性(困難に打ち勝つ力)やレジリエンス(困難から立ち直る力)を高めていくことが重要なことです。」

お話をお聞きし、すべてのこどもたちがしあわせな生活を送ることが出来る社会の実現に微力ながら努めていきたいと強く思いました。



老上中学校 PTA

老上中学校 PTA 同和教育推進委員会では、「いのち輝くまちづくりをめざして ~子どもの笑顔を守るために~」をスローガンに、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくし子どもの人権が大切にされる社会を実現するため、保護者と教職員、地域の方と活動を進めています。今年度は人権学習講演会の開催とともに、PTA 同和教育アンケートを実施、各家庭で人権について話し合っていました。

また、新たな試みとして人権啓発動画を作成し、学校 HP に掲載しました。学校と地域、家庭がともに学ぶ環境づくりを進めています。



老上こども園 4歳児  
にしだ ゆいな  
西田 結那 さん



老上こども園 5歳児  
うえだ さな  
上田 紗菜 さん



老上こども園 5歳児  
まえだ ふうた  
前田 楓太 さん



第1回



人権を考えるつどい



第2回



「いいも悪いもそれが生き方の手本」  
～子育て=人権教育と思いませんか～

老上こども園 園長 徳田 景子さん

7月19日(金)19:30～【老上まちづくりセンター】

幼児教育の仕事に就かれてから、人権問題と子育てとの関係を考える機会から、ともに育ち合うことが大切だと感じてられました。

学生の頃に、身内の結婚問題で周囲の反対があり、当時は理解できずモヤモヤとした気分が常に心に残っていました。あることがきっかけで、モヤモヤとした想いをうちあけることで戸惑いも解消しました。

自分が変わるためには、人権を学び続けることで、自分事としてとらえていくことの大切さを教えていただきました。

「私と同和教育」

老上西小学校 校長 廣瀬 智彦さん

8月7日(水)19:30～【老上西まちづくりセンター】

30数年の教職員として、その間の教育集会所や人権センターなどに携わった経験から、今なお強く残る部落差別の現状についてお話しいただきました。

高校の部活時に部落差別を初めて感じた憤りの心！教育集会所で『自主活』の運営に関わった際の充実感とその反面、結婚差別に直面した際のやるせない思い！人権センターに勤務している時に町内学習懇談会で目の当たりにした部落差別に対する忌避意識の実態！

こうした差別を憎む感情をベースにして、現状を見てみると前回の「人権・同和問題」に関する市民意識調査の中で、部落差別を差別と感じない人がまだ多数おられ、様々な差別の中でも日本だけにある特殊な差別である部落差別をまずは根絶させることが一番大切なことだと訴えられました。



県外研修

～京都～



11月26日(火)に老上同推協委員で県外研修に行きました。今も残存する部落差別が歴史の中に埋没してしまう前に、どんなものであったかという事実を知り学ぶ事が部落差別の解決に繋がるのでは？との思いから、毎年実施しています。今年度は、となりに位置しながら意外と知られていない京都(京都府部落解放センター/龍安寺/立命館大学国際平和ミュージアム)を尋ねてみました。

解放センターの川端宏幸講師から部落差別(歴史上差別されてきた人々)について説明を受けました。龍安寺では石庭の見学とボランティアガイドの一坪博美さんから説明を受けました。部落民と寺院との関わり方、石庭を造る際に部落民が携わっていた事実には驚きました。最後に、平和ミュージアムでは、『見て・感じて・考えて、その一歩を踏み出そう』をコンセプトに今も終わらない戦争について再び考えさせられる展示でした。三箇所を廻る強行スケジュールでしたが意義深い研修でした。

～平和ミュージアム特別展、平和活動家の阿波根昌鴻(あはごん しょうこう)さんの言葉を……

『平和の最大の敵は無関心である。』

平和を部落差別に置き換えても然り!～



京都府部落解放センターにて研修

龍安寺ガイド案内



立命館大学国際平和ミュージアム見学



私たちは、ふつう・あたりまえに使っている言葉や行動で人にいやな思いをさせているかも知れません。  
ふだんから同和問題を正しく知り、正しい行動をしていきたいと思います。

